

## I 市勢の概要

- 1 プロフィール
- 2 人口・世帯数等
- 3 産業別就業人口割合

## 1 プロフィール

### (1) 沿革

本市は、現在の宮城県南部に位置する亶理町、亶理伊達家15代当主伊達邦成が率いての集団移住によって開拓されました。移住は1870年（明治3年）から1881年（明治14年）までの間、9回にわたって行われ、総勢約2,700人が移住しました。その後、1900年（明治33年）には伊達村が誕生し、以後、着実な開拓と発展により、1925年（大正14年）に町制施行、1972年（昭和47年）に市制施行となり、2006年（平成18年）には旧大滝村（現伊達市大滝区）と合併し、現在に至っています。一方、大滝区（旧大滝村）の開拓は、1894年（明治27年）に青森県人の永井五郎兵衛が優徳に入植したことが始まりと伝えられ、1896年（明治29年）に鹿児島県人の橋口文蔵により開拓されました。

気候は、日本海から津軽海峡を通過する対馬暖流の影響を受け、四季を通じて温暖であり、初雪も11月と遅く降雪量も少ないことから「北の湘南」と称されています。一方、内陸に位置する大滝区は、寒さが厳しく最深積雪が100cmを上回ります。

産業面では第1次産業を柱に、農業は種類豊富な野菜が中心で「伊達野菜」の名でブランド化が展開され、高糖度のトマトや越冬玉ねぎの生産等、新たな取り組みも行っています。一方、大滝区は長芋やアロニア（小果実）の栽培等、付加価値の高い作物の生産に力を入れています。観光では、大滝区の変化に富んだ丘陵と森に囲まれている地形は、絶好のクロスカントリーコースとして愛好者が多く、スキーマラソンやノルディックウォーキングなどが開催されているほか、湯量豊富な「北湯沢温泉郷」には多くの観光客が訪れています。

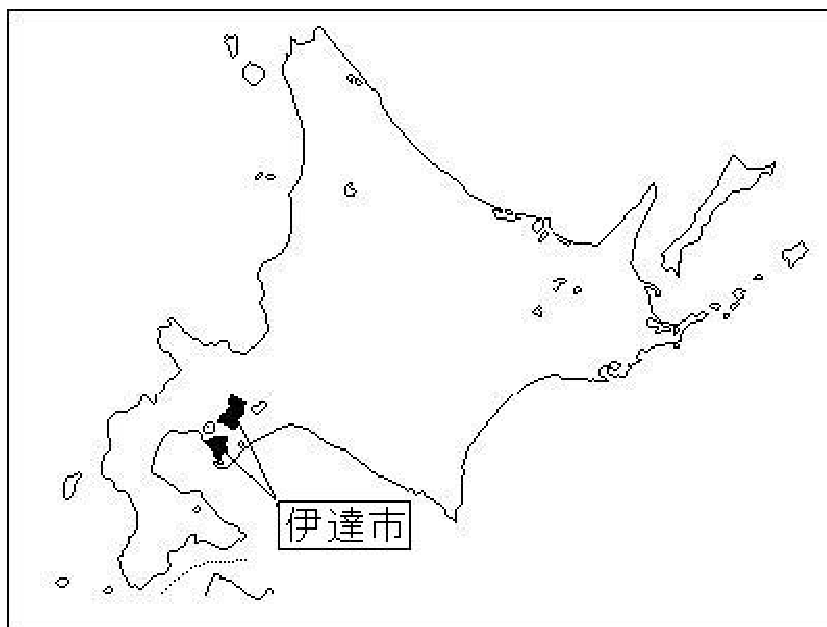
また1968年（昭和43年）に北海道が知的障がい者総合援護施設を開設したことを契機に、授産施設やグループホームの開設が相次ぎ、関連の就業者も多く、「福祉のまち」として、街中居住による市民との共生社会が実践されています。

### (2) 位置

本市は北海道の中央南西部、噴火湾（内浦湾）に面し、道都である札幌市と函館市の中間に位置します。伊達地域と大滝区は壮瞥町を挟み、東は登別市・白老町・千歳市、西は喜茂別町・留寿都村・洞爺湖町、南は室蘭市、北は札幌市と接しています。

### (3) 面積

444.2 Km<sup>2</sup>



## 2 人口・世帯数等

区 分 \ 年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人 口 (人)	34,579	34,083	33,656	33,209	32,599
世 帯 数 (世帯)	17,920	17,871	17,831	17,805	17,640
面 積 (km <sup>2</sup> )	444.2	444.2	444.2	444.2	444.2
1 km <sup>2</sup> 当 たり 人 口 (人)	78	77	76	75	73
1 km <sup>2</sup> 当 たり 世 帯 数 (世帯)	40.3	40.2	40.1	40.1	39.7
税 務 職 員 数 (人)	22	22	22	22	23
税務職員1人当たり人口(人)	1,572	1,549	1,530	1,510	1,417

※各年度3月31日現在

## 3 産業別就業人口割合

